

令和5年度「土砂災害防止に関する絵画・作文」作文小学生の部 優秀賞(事務次官賞)

「 命を守るには 」

岐阜県 高山市立東小学校 6年 矢篋原 綺乃

土砂災害が起きた後の家の様子が、テレビに映っていた。改めて土砂災害とは、どんな様子だろうと思い、真剣に映像を見た。土砂災害は、とても怖い。住む所も人の命も、一瞬で無くなる。人の力ではどうする事も出来ない事が、自然災害だ。と学び心が傷んだ。そのお陰で、深く考える心が動いた。

自然災害は、起きてしまったら人間の力では止められません。それは「ドミノ倒し」と似ています。ドミノをしていて、「あと少しで完成だ！！。」という時に、ひじが当たって、集中して出来上がりを楽しみにしていたドミノが全て倒れてしまった事があります。ドミノ倒しは、作る場所を自分で決めて、倒さない様に注意出来るけれど、土砂災害は、自然の力なので、人間の力では止める事は出来ません。だけど、人間には考える力、行動する事が出来るので、土砂災害が起きそうな場所には、家を建てない様にしたり、山に対して、感謝の気持ちを込めて、祈りをしたりと、一人一人の、ちょっとした考えや行いで、大きな災害が減っていくのだと思います。

夏休みに、土砂災害に関係する経験を、2回しました。家で水遊びをして片付ける時に、妹が何も考えずに、たらいの水を少し坂になっている場所から流しました。すると、少しの水がかたまり、大きな川になって、砂や石、木の枝、そしてミミズを運んでいたアリまでどんどんと畑の方まで流れていきました。私はその様子を見て、「土砂災害と同じや！！」と感じ、アリさん達を助ける為に、大きい石で流れる水を止めようとしてしましたが、全く止まる様子はありませんでした。それを見て、「水は生き物や。」と思いました。水は、少しの小さなすき間から入り込み、水の力で、すきまを穴に変えていきます。そして、少しの坂で川が出来ます。水の勢いが強いほど、流れも強くなる様子がよく分かりました。アリを人間と思って考えると、土砂災害の怖さがよく分かり、水の事やしくみを学びました。

3つ目は、三重県の海へ、旅行に行った時です。砂浜で遊んでいる時、砂を固めて斜めから太い木の枝で掘りました。すると、砂にどんとどんとひびが入って割れてきました。その様子を見て、「土砂災害の種類の一つ、がけ崩れや！！」と気が付きました。それを止めようとして、大きな石を上に乗せたけれど、止まらずに、ひび割れは広がっていったので、その速さに驚きました。よく考えてみると、砂浜の軽い砂で、重たい石がもち上がったので、「もしもコンクリートの地面が盛り上がったら、私の家も、もち上がって倒れるんじゃないか。」と心配になりました。自然の力は、予想の出来ないくらい、強力な事を学びました。

この2つの経験から、少しの間でも、大雨が降ったら、自然の大きな力にはかなわず、沢山の人の命をうばってしまう程、大きな災害を引き起こす事を学びました。そして、その時に、自分や大切な人の命を守る為に、住んでいる土地の確認をしたり、ハザードマップを見て危険な場所を頭の中に入れたり、地域の避難場所を見に行ったりする事を、家族と話し合う事が大切だと分かりました。

2つの経験から、土砂災害や自然災害の怖さがとても強く頭にきざまれ心に残りました。「今、自分の町は災害にあってないからいい。」と他人の事に軽い気持ちで考えるのではなく、「日本のどこかで災害が起きても、自分の命は自分で守り、人の命も自分の命の様に守る。」という考え方が大切だと思いました。毎日の暮らしを「あたりまえ」と思って過ごすのではなく、小さな事にも感謝する心を持って過ごす人が、少しずつ増えていくといいなあと、願いを込めて、この作文を書きあげました。土砂災害から、沢山の事を学ばせてくれた自然と、毎日私達を守ってくれている地球さんに、ありがとうございます。